2026. 10. 21

【貿易統計（26 年 9 月）】

# 輸出、半導体関連がけん引し 13 ヵ月連続のプラス

## ～引き続き旺盛な AI 関連需要を背景に、先行きは当面、堅調な推移を予想～

経済調査部　主席研究員
藤田　敬史

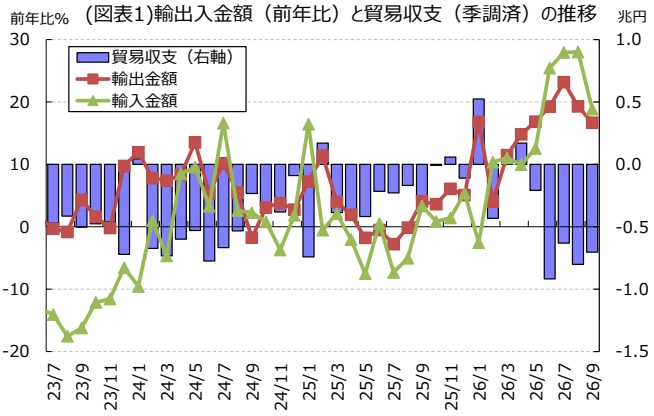
**ポイント**

- **財務省の 9 月貿易統計によると、輸出金額は前年比＋16.7%と 13 ヵ月連続のプラス。季調済前月比は▲1.1%と 7 ヵ月ぶりのマイナスとなった**
- **商品別の輸出では、半導体等電子部品を含む電気機器、半導体等製造装置を含む一般機械などが引き続きプラスに寄与**
- **輸出の先行きは、AI の普及やデータセンター投資の拡大を背景に、当面、半導体関連がけん引する形で堅調に推移すると予想**

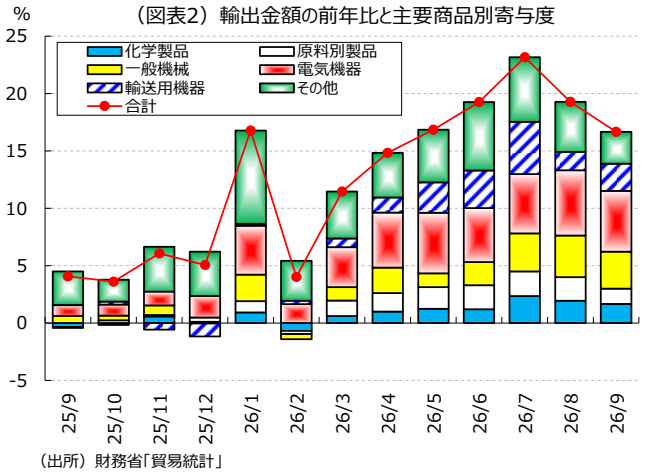
### 1．季調済輸出金額前月比は 7 ヵ月ぶりのマイナス

財務省から発表された 9 月の貿易統計によると、輸出金額は前年比＋16.7%（8 月：同＋19.3%）と 13 ヵ月連続のプラスとなった（図表 1）。輸入金額は同＋18.9%（同＋28.0%）で 8 ヵ月連続のプラスであった。季節調整前の原数値ベースで、輸出金額は 10 兆 9,723 億円、輸入金額は 11 兆 5,088 億円と、いずれも 9 月としては比較可能な 1979 年以降で過去最高となり、貿易収支は▲5,365 億円と 5 ヵ月連続の赤字となった。

季調済輸出金額は前月比▲1.1%と 7 ヵ月ぶりのマイナス、季調済輸入金額は同▲1.9%と 6 ヵ月ぶりのマイナスとなった。季調済貿易収支は▲7,040 億円と 5 ヵ月連続の赤字だが、赤字幅は縮小した。




（出所）財務省「貿易統計」




（出所）財務省「貿易統計」

### 2．引き続き半導体関連がけん引

金額ベースの商品別輸出では、半導体関連の好調が続く。半導体等電子部品を含む電気機器が前年比＋30.3%（寄与度：＋5.3 ﾎﾟｲﾝﾄ）とプラスに寄与した（図表 2）。半導体等電子部品は同＋49.4%（同：＋3.3 ﾎﾟｲﾝﾄ）と高い伸びが続いており、特にアジア向けが前年比＋51.8%とプ

ラスが続いている（図表 3）。半導体等製造装置を含む一般機械も前年比＋18.4%（寄与度：＋3.2 ﾎﾟｲﾝﾄ）とプラスに寄与した。半導体等製造装置は同＋43.9%（同：＋1.8 ﾎﾟｲﾝﾄ）と高い伸びが続いている。

半導体等電子部品は、アジアからの輸入金額も前年比＋57.0%と大きく増加している（前掲、図表 3）。日銀の企業物価指数によると、輸出入物価指数は前年比 2 桁プラスが続いており、単価が上昇している様子を示している。AI やデータセンター向けなどの半導体需要の拡大が、アジア域内のサプライチェーンを通じて、日本の輸出入双方を押し上げているとみられる。

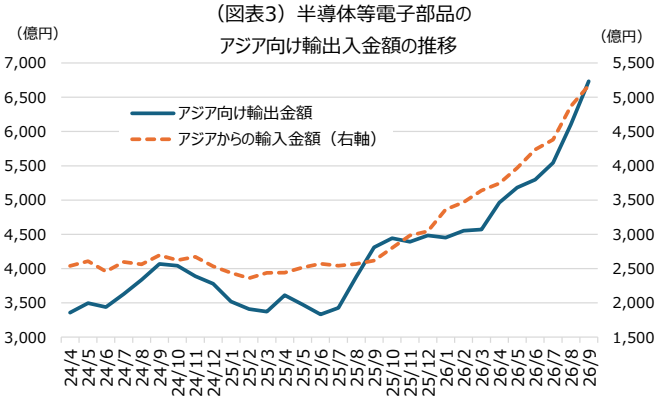
金額ベースの国（地域）別輸出は、米国向けが前年比＋22.9%、EU 向けが同＋10.5%、アジア向けが同＋17.5%のプラスであった（図表 4）。EU 向け、アジア向けはそれぞれ 14 ヵ月連続のプラスとなった。米国向けは 7 ヵ月連続のプラスとなるなか、輸入は原油及び粗油、液化天然ガスなどの押し上げが続き、同＋44.8%と輸出の伸びを上回る。この結果、対米貿易収支は黒字が続くものの、黒字幅は前年比で 10 ヵ月連続のマイナスとなった。政府が原油調達の多角化を進めるなか、米国からの原油・LNG 調達が高水準で続けば、対米黒字は当面、縮小基調で推移することが予想される。

### 3．輸出は先行き堅調な推移を予想

輸出金額を価格指数と数量指数に分解すると、9 月は価格指数が前年比＋14.5%（8 月：同＋16.5%）、数量指数は同＋1.9%（同＋2.4%）であった（図表 5）。2026 年 9 月の為替レート（税関長公示レートの平均値）は 157.43 円/ﾄﾞﾙと、2025 年 9 月の 147.61 円/ﾄﾞﾙに対し 6.7%の円安であった。こうした円安により円換算金額が押し上げられる構図が続いており、価格指数は 14 ヵ月連続のプラスである。数量指数も 7 ヵ月連続のプラスと堅調に推移している。

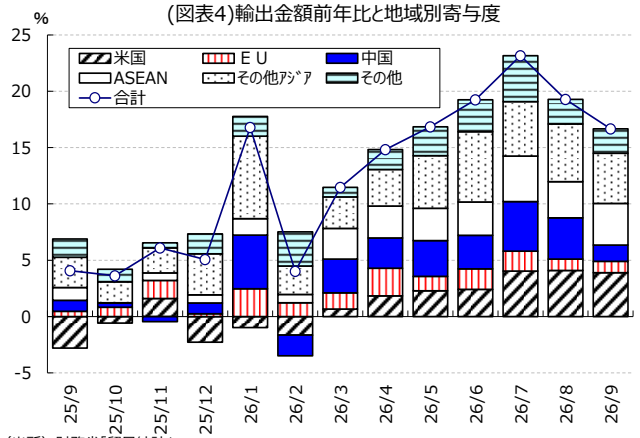
輸出数量指数を相手国・地域別に見ると、米国向けが前年比＋11.8%（8 月：同＋19.7%）、EU 向けが同▲0.9%（同＋2.0%）、アジア向けは同▲0.2%（同＋1.0%）、うち中国向けは同▲6.8%（同▲1.3%）であった（図表 6）。米国向けは 7 ヵ月連続のプラスとなる一方、EU 向けは 9 ヵ月ぶり、アジア向けは 7 ヵ月ぶりの小幅マイナスとなった。

（図表3）半導体等電子部品の
アジア向け輸出入金額の推移



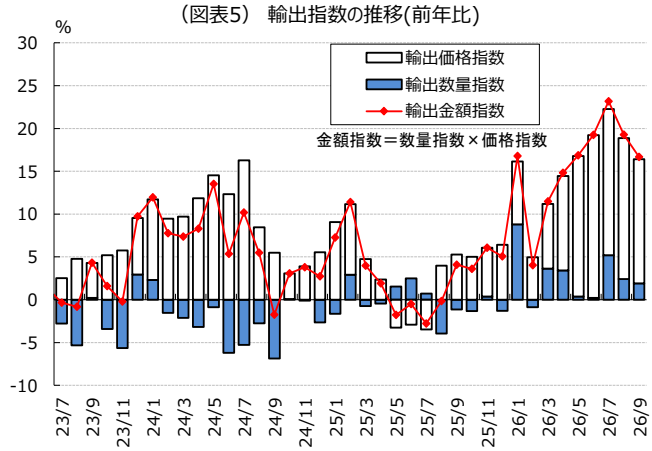

（出所）財務省「貿易統計」、3カ月後方移動平均

(図表4)輸出金額前年比と地域別寄与度



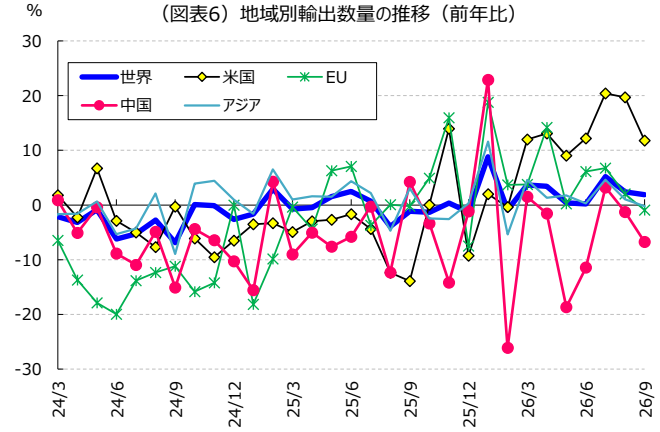

（出所）財務省「貿易統計」

（図表5） 輸出指数の推移(前年比)




（出所）財務省「貿易統計」

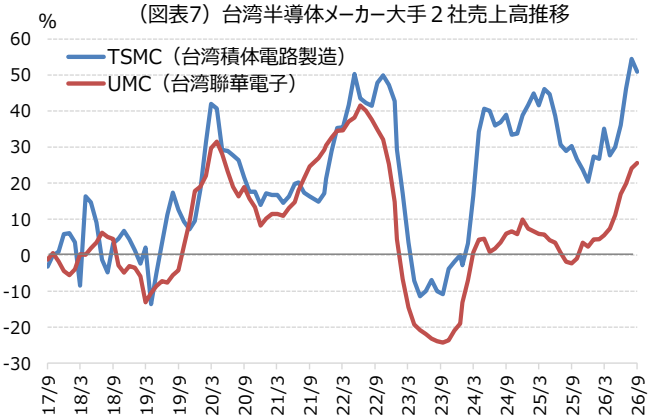
（図表6）地域別輸出数量の推移（前年比）




（出所）財務省「貿易統計」

輸出の先行きについては、AI の普及やデータセンター投資の拡大を背景に、半導体関連の需要拡大が続くとみられる。台湾の主要半導体受託製造企業である TSMC、UMC の売上高はプラス基調が続いている（図表 7）。10 月 15 日に発表された TSMC の決算では、2026 年通期のドル建て売上高成長率見通しを従来の前年比＋40%から＋44%へと上方修正するなど、今後も旺盛な半導体需要がうかがえる。そうした状況をふまえると、アジア向けを中心としたサプライチェーン向けに、半導体関連製品の好調が継続することが見込まれ、当面、堅調に推移すると予想する。

（図表7）台湾半導体メーカー大手２社売上高推移




（出所）各社HP、月次売上高から明治安田総研作成（3ヵ月後方移動平均前年比）

本レポートに関するご取材やお問い合わせは以下までご連絡ください
明治安田総合研究所 主席研究員 藤田 敬史
電話番号：080 2298 8272
e-mail：takafumi.fujita@myri.co.jp

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●発行元● 株式会社 明治安田総合研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北3－2－11 TEL03-6261-6411